室蘭工業大学
学術資源アーカイブ
Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive

ひらがなスクリプトを用いて分節化を行う聴解練習

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道言語研究会 公開日: 2013-11-29 キーワード (Ja): 聴解練習, ひらがなスクリプト, 既知語の聞き取り, 分節化, フレーズ キーワード (En): 作成者: 白井, 勢津子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/2692

北海道言語文化研究　　北海道言語研究会
No. 8, 13-32, 2010.

ひらがなスクリプトを用いて分節化を行う聴解練習*

白井勢津子

Listening Practice Focusing on Phrase Boundaries While Looking at Transcripts Written in Hiragana

Setsuko SHIRAI

要旨：本聴解レベルの低い学習者は、単字レベルでの間違いや語の切り出しができないため、既知語の聞き取りもままならない。一方、聴解レベルの高い学習者は、フレーズごとに理解していると言われている。

また、中国語話者は、一般に漢字依存が強く、読解は得意であるが聴解は苦手である。更に、漢字、特に同根語を中国語音で黙読する傾向にある。

これらの点を踏まえて、次のような聴解の方法を考案した。まず、表音文字であるひらがなを用いたスクリプトを見せながら、音声を聞かせることにより、単字レベルの間違いを防ぐ。次に句境界を答えさせることにより、イントネーションに注意させ、語の切り出しができるようにさせる。更に、ひらがなを漢字仮名交じり文に変えさせることにより、単語の意味を推測させ、音韻と意味とのリンクを強化する。このような聴解練習を１年間行ったところ、学習者の聴解能力は向上した。本稿はその報告である。

キーワード：聴解練習　ひらがなスクリプト　既知語の聞き取り　分節化　フレーズ

1.　初めに

聴解能力を向上するための様々な研究が行われているが、注目を引く研究として、O’Malley, Chamot, & Kupper (1989:429) の研究が挙げられる。その研究によると、聴解能力の低い学習者は、一語一語理解しようとするため、わからない単語があると、聞くことを停止するのに対し、聴解レベルの高い学習者は、フレーズごとに理解しようとする点を明らかにしたことにある。このような研究成果を踏まえて、中村 (2003) では、学習者に、一語一語ではなく、フレーズごとに理解させるために、フレーズとフレーズの間にポーズの挿入を行って、聴解能力が向上するかどうかについての研究がなされた。この研究の特徴として、一息で、話されるフレーズ（breath group）を参考に、ポーズの挿入が行われた点が挙げられる。本稿においても、上記のような成果を十分踏まえた上で、学習者にフレーズごとに理解させようとする研究について論じるが、方法としては、岡

ノ谷（2003）の提唱した分節化[1]、つまり音声の流れをフレーズごとに区切る概念を取り入れることにする。

中国語話者は、書字から意味の認知はできるが、音韻から意味の認知ができないことが多いため、単語の音韻と意味のリンクを強化する必要がある。漢字の日本語音を表示するのに振り仮名が用いられているように、ひらがなは音韻と意味を媒介するのに有用である。しかし、ひらがなの各音は、無声化が起きたり、尾子音の「ん」が後続の子音と同化したりと、音声上のゆれがあるにも関わらず、日本語教育の初期に、はっきりした発音で教えられるのみであることが多い。発音のゆれに慣れさせ、更に音韻と意味のリンクを強化させるために、ひらがなスクリプトを見せながら、聴解練習をさせるとことにする。

本研究では、学習者に息継ぎに注意を払って、句境界を探すようにと指示をし、聴解能力が向上するかどうかに限って、約 1 年間調査を行った。本稿はその報告である。

2.これまでの聴解研究

2.1. トップダウン処理とボトムアップ処理

聴解に関する研究によれば、音声情報の処理はボトムアップとトップダウンという二つの大きな側面から行われていると言えよう。まず、トップダウン処理とは聞き手の保有している現実の世界や文法の知識などを活用して内容を理解するということである。それに対してボトムアップ処理による聴解とは、各音素を理解して、次に単音、さらに単語、句というように内容を理解していく方法である。

聴解の授業においても、概ね、この二つの方向の情報処理を強化するような訓練が行われている。トップダウンによる聴解を強化するためにニュースの背景などについて説明してから学生に聞き取りを行わせる方法がとられている。

一方、ボトムアップ、特に単音レベルの聞き取りを強化するために、清濁や長短などのミニマルペアを用いた聴解練習がよく行われている。更に、教師が予め教えた語彙から、文の意味を推測させるという方法も取られている。

ボトムアップの練習の中で、単音レベルの聴解練習は、あまり効果的であるとは思われない。留学経験のある学生でも、清濁を間違えるように、限られた時間内で、清濁を会得させることは、難しい。また、単音レベルの違いは、文脈からわかることがある。例えば、「帰ってきたと思ったら、___出かけた」の空白に入るのは、「まだ」ではなく、「また[2]」である。更に、日本語の音韻ルールを教える方が、効果的である場合もある。例えば、日本語では、促音のあとは、外来語でないかぎり、清音がくる。外来語でも、「バッグ」のような使用頻度の高い語は、「バック」と清音化することもある。学習者に、促音の後は清音となることが多いというような音韻ルールを教えた方がよいと思う。

---

[1] 分節化については、第 3 章第 1 節で詳しく述べる。
[2] 中国語話者の多くには、「また」が「まだ」に聞こえるようである。

2.2. 聴解レベル

Ross（1997: 222）は、学習者を聴解のレベルによって、分類した。Ross（1997: 222）は、日本人の英語学習者にテープを聞かせながら、関連した絵を選択させる実験を行った。その実験では、学生に「空の旅が行われる以前における海外旅行をするための唯一の方法」という内容の音声を聞かせ、「飛行機」や「船」などの絵を選ばせた。その結果により、次のように聴解のレベルを 8 段階に分類した[3]。

（1）レベル 1 (Noise) の学習者は、テープが早すぎる、長すぎる、全く知らない語のみだなどの理由で、1 つの音素すら聞き取ることができない。

（2）次に、レベル 2 (Distraction) の学習者は、音声を聞きながら、マッチした絵を選ぶというタスクが過重負担であるため、絵を選ぶ前に、次の音声が流れてくるということになり、タスクを継続することができない。

（3）そして、レベル 3 (Syllable restructuring) の学習者は、音の流れを音節ごとに、切り出すことが困難で、例えば、“I seem” を “ice” と区切ってしまう。

（4）また、レベル 4（Syllable identification) の学習者は、1 音節、たとえば、“wash”を聞き取ることができ、それに基づいて絵を選ぶ。

（5）さらに、レベル 5 (Key word association) の学習者は、1 つのキーワードを聞き取り、それに基づいて絵の選択を行う。

（6）そして、レベル 6 (Linked by words) の学習者は、2 つ以上のキーワードを聞き取ることができ、それに基づいて絵を選択する。

（7）レベル 7 (Phrases) の学習者は、前置詞などを含んだ句を聞き取ることができ、絵の選択を行うときに誤答の絵を減らすことができるため､正しい答えを選択する率が高い。

（8）最後に、レベル 8 (Complete Images) の学習者は、文をほぼ完全に聞き取ることができるので、正しい答えを選択する。

2.3. 聴解ストラテジー

次に、水田澄子 (1996) は、日本語母語話者と中国語を母語とする学習者に日本人向けの講演テープを聞かせて聴解に用いるストラテジーについて調査した。その研究に参加した中国語話者は日本語検定 1 級合格レベルであったが、半数以上が、単音または単語の認知に問題があったため聞き取れなかった。また、聞き取れなかったときに、とったストラテジーの中で一番多かったのは、問題を特定し、それ以上何もしないというのであった。次に多かったのは、問題を特定後、文脈を基に推測を行うというストラテジーであった。

そして、この文脈を基に未知語の意味を推測するストラテジーを学習者に教えようという試みが早稲田大学の日本語研究センター（吉岡 2008) によって行われている。そこでは、教師は未知語を、直ちに教えることをせずに、まず、学習者に推測するように指

[3] 下記の分類は、Ross (1997) によるものであり、原文は、英語であったものを筆者が日本語に翻訳したものである。

示することによって、学習者にこのストラテジーを習得させる。推測した語は、辞書によって覚えた語より長く記憶されるからである[4]。

ところが、聴解レベルの低い学習者は、次に述べるスワン彰子（1989）の報告にあるように、単音レベルで間違えたり、分節化を正しく、行えなかったりするため、未知語のみではなく、既知語を認知することも難しいのである。

2.4. 学習者による間違い

スワン彰子 (1989: 117) は、中国語話者や韓国語話者に対するニュースを用いた聴解指導について報告しており、その報告のなかで、学習者の聞き誤りの様々な例を取り上げている。氏によれば、まず、母音が連続している場合に二番目の母音「い」を聞き落とすことが多いと言う。中でも、ピッチが変化した場合に間違えやすいことを取り上げている。さらに、外来語の練習の強化が必要であると述べている。また、よく知られている清濁、長短、促音、撥音などの聞き誤りに加えて、語境界の誤りについても報告している。例えば、「瓦礫と化す」を「瓦礫、溶かす」と聞き誤った例や「アルコール度も」を「アルコールどうも」と助詞を含めて一語と理解した例などがそれに当たる。

さらに、学生が書字から認知できる単語を、音声から認知するのが困難であることが多いと言ったとのことである。これは、既知語の認知に問題があることを示唆している。この問題を筆者に認識させた出来事が起きた。ある学生に、「しゅふ[5]」と言ったところ、最初、理解できなかったが、「家で料理や掃除などをする人」と説明したところ、「しゅふ」と言った様子から、「主婦」という単語は知っていたが、筆者が言った言葉を認知できなかったようである。このように、聴解能力のあまりない学習者にとっては、既知語であっても、音声からの認知は、相当難しいようである。この単語の認知についての研究を次に紹介する。

2.5. 語の認知に関して

中国語話者が読解は得意であるが、聴解は苦手であるということを裏付ける研究結果がある。小森和子 (2006) は、中国語話者と韓国語話者を対象に読解と聴解において、書字が中国語と日本語で同じである同根語と違う非同根語による内容理解度の違いを調査した。中国語話者は、読解において同根語効果が見られたが、聴解では見られなかった。

また、台湾人日本語学習者が中国語音で同根語を読んでいるということが邱學墐 (2002) の研究で判明した。邱學墐 (2002) は、台湾人の日本語能力試験１級２級合格者を対象に同根語と非同根語を使用して、同音異義語[6]による反応の遅れ、また、正解率の違いがあるかどうかについて、実験を行った。その結果、同根語であっても、反応の遅れが見られなかった。これらの結果から、中国語話者は、同根語を中国語音で黙読して

---

[4] 『日英の言語・文化・教育―多様な視座を求めて』日英言語文化研究会　2008：329

[5] 「主婦」の「ふ」は、英語の“f”と違い両唇音である。また、筆者の“u”は非円唇であるが、中国語は、円唇である。しかし、無声化はしていなかった。

[6] 邱(2002)の例に「電灯」と「伝統」がある。これらは、日本語音では、「でんとう」だが、中国語音では、“diandeng” と“chuantong”（ピンイン）と発音がかなり違う。日本語音で考えると反応に遅れが生ずるが中国語音では遅れが生じない。

いるとの結論を導いた。

邱兪瑗 (2007) は、台湾人日本語学習者を対象に高頻度語[7]の聴覚的認知について実験を行った。被験者は、日本在住の日本語能力試験１級合格者、及び台湾在住の１級合格者と２級合格者である。その結果、ひらがな単語がカタカナ単語や同根語より早く認知されるとの結論を得た。このことは、ひらがなが音韻と意味をリンクさせるのに有効であることを示している。また、台湾在住の日本語学習者の場合、同根語の認知が非同根語より遅かった。これらの研究は、中国語話者に対して、単語の音韻と意味をリンクさせる練習の必要性を示している。

聴解による認知に関しては、ほかにも問題がある。日本語の漢字の読みは、一通りではない。例えば、「行」を、「行者」では、「ぎょう」、「孝行」では、「こう」、「行灯」では、「あん」のように漢単語としての発音だけで、３通りある（山口仲美 2006: 212）。また、「観音」の「音」を「のん」（山口仲美 2006: 149）と読むような連声が、聴解による語の認知を難しくする。このような読みに慣れさせるためにも、ひらがなスクリプトを用いた聴解練習を必要である。

2.6. ひらがな

本稿は、ひらがなスクリプトを用いた聴解練習についての報告であるので、ひらがな教育についても紹介する。浅田和泉 (2002) によると、 漢字圏で行われているひらがな教育は、教師がひらがなを１字ずつ、読み、学生にリピートさせるという方法が多く取られている。その後、単語についても、同じように発音練習が行われる。また、教師が読んだひらがなや単語を学生に書きとらせる練習も行われている。

聴解において、ディクテーションの際にひらがなで書かせることは、行われているが、全文をひらがなのみで書かれたスクリプトを用いた聴解練習は管見の限り、皆無である[8]。また、聴解の問題には、ディクテーション以外では、絵や数字、更に音声の中から選択させるものが多い。文字から選ばせる質問もあるが、初歩のものを除き、漢字仮名交じり文である。

更に、聴解のテキストに、ひらがなスクリプトはほとんど用いられていない。例えば、『初級聴解練習毎日の聞き取り 50 日』(宮城幸枝 1999) や『わくわく文法リスニング 1』(小林典子ほか 1995) のスクリプトは振り仮名つきの漢字仮名交じり文である。このため、ひらがなスクリプトを見ながら聞くということはあまりないと思う。本研究は、ひらがなスクリプトを用いた点で他に類をみない聴解研究である。

2.7. 初級レベルにおけるニュースを用いた聴解

聴解の教材として、ニュースを用いることが広く行われている。ニュースは未習の語彙が多いため、上級者用と思われがちであるが、岡崎 (1993) においては、初級の学習者

---

[7] 『NTT データベースシリーズ　日本語の語彙特性　頻度』(1999) によって、選定された。低頻度語についての調査もなされたが、結果は、語種による違いが観察されなかった。本稿では、低頻度語の結果は、聴解レベルの低い学習者にとってそれほど重要でないと思うので割愛する。

[8] 台湾で発行された『３隻耳學新聞日語』(2004) に、ひらがなとカタカナで書かれたスクリプトの一部を空白とし、聴解練習を行わせる問題がある。

を対象にラジオニュースを教材に聴解の授業を行い、ニュースを聞かせる前に、語彙を教え、聴解練習を行ったところ、聴解能力があがったという報告を出している。

3. 分節化

3.1. 分節化とは

前章で述べた分節化とは、音声を意味のあるフレーズ、または単語に区切ることである。聞きなれない外国語を聞くと、語の始まりと終わりがわからないことが多いが、しばらくすると、語を切り出せるようになる。また、岡ノ谷 (2003) によると、生まれたばかりの新生児は、継続した音声から、語境界や句境界を見つける学習を行っている。新生児は、連続した音声を聞きながら、どのようなパターンが多いかについて、情報を蓄えていく。日本語の分節化習得に関する研究 (林 2003) によると、2 音節 3 モーラ語[9]と 3 音節 3 モーラ語を生後 4〜6 ケ月の乳児は弁別できなかったが、8〜10 ケ月の乳児が弁別できたということである。つまり、ネイティブスピーカーでも、分節化ができるようになるのに、約 1 年弱かかる。

乳児が音声を聞きながら、分節化を行うための分析を行う必要があるように、学習者も外国語を学ぶ折に、音声を聞く必要がある。筆者の経験であるが、英語でニュースを聞き始めた当初、一語も聞き取れなかった。さらに、英語のニュースの開始と同時に寝入り、終了と同時に目が覚めるような状態が続いたが、英語のニュースを聞き続けた。日本語になると目が覚めたことから、聞いていたのであろう。つまり、この半睡半眠の状態で、英語のパターン[10]の分析を行っていたと考えられる。

また、第 1 言語習得と比較すると、第 2 言語習得に時間がかかることはよく知られている。Driscoll (1999) によると、Vilke は、外国語をマスターするために、1000 時間以上、聞く必要があると推計したということである。

前述の Ross (1997) の研究におけるレベル 3 (Syllable restructuring) の学習者は、音節の正しい境界を見つけることができなかった。つまり、分節化ができなかったのである。このように外国語の分節化は難しく、この分節化ができるようになると、句境界がわかるようになり、ひいては、フレーズごとに意味を理解することができるようになると思われる。

3.2. 語句の境界におけるイントネーション

日本語の文法上の単位である文節には、名詞と助詞で、構成されている名詞句や動詞句などがあるが、文節の境界には、音声的な特徴が観察されることが多い。日本語の音声の境界には、アクセント句境界、イントネーション句境界（五十嵐ほか[11] 2006: 348) がある。アクセント句とイントネーション句の違いは、対象とする句のピッチのレンジが先行する句のピッチレンジより、縮小する（ダウンステップ）か、それとも、拡大する

[9] 2 音節 3 モーラ語は、特殊拍、つまり、撥音、長音、促音などを含む。
[10] Cutler and Noris (1988)があるコーパスの語について調査したところ、75%の語が語頭に強勢アクセントがあったという。そのため、英語の語の切り出しは比較的容易である。
[11] 『日本語話し言葉コーパス』には、形態素の境界を示す語境界もある。

（ピッチリセット）かによる（五十嵐ほか 2006: 420)。

このイントネーション句が文法上の句と一致することが多いことを示すために、波形図とピッチを下記の図 1に示して置く。句ごとの境界線を縦線で示した。

この波形図によると、トピックを示す「台湾では」とつぎの「きょうから」の間のポーズが長い。また、「台湾では」で下がったピッチが、次の「きょうから」で、再び、上がっている、つまり、ピッチがリセットされていることが明らかである。ゆえに、「台湾では」と「きょうから」は、それぞれイントネーション句である。

一方、「公共の」と「場所での」の間に、ポーズがなく、また、ピッチも、次第に下がっているので、「公共の」と「場所での」はそれぞれアクセント句であり、両句で構成された「公共の場所での」は、イントネーション句である。文法的に、「公共の」が「場所で」を修飾しており、これらの文節で名詞句を構成している。このように、「公共の場所での」は、文法上の単位であると同時に、音声上のイントネーション句でもあるというように、文法と音声の句境界が一致している。

また、「禁止する」と「法律が施行されました」の間に、ポーズがなく、また、ピッチも、ゆっくり下がっていることから、「禁止する法律が施行されました」がイントネーション句である。ここでの「禁止する」は、「法律」を修飾していることから、名詞句の構成要素である。このように修飾語と被修飾語の間にポーズがないことが多い。

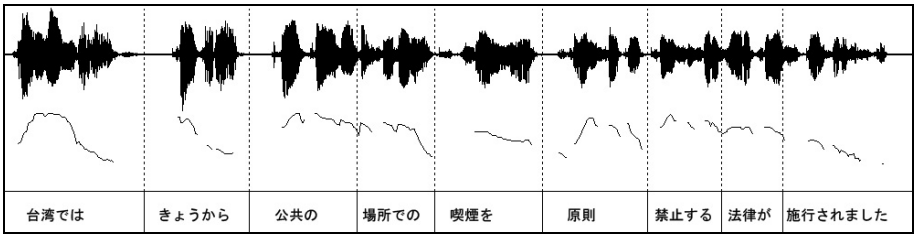


図 1　文法上の境界と音声上の境界の一致（波形図とピッチ）[12]

ここで示したように、文法上の境界では、音声上でも変化が起きることから、ポーズやピッチに注意を払うことは聴解の重要な要素となることが明らかであろう。

また、イントネーションだけではなく、アクセントも、語境界を見つけるのに、非常に役に立つことは言うまでもないことであろう。周知の通り、日本語では、１拍目と２拍目の高さが違う。そのために、当初は、語境界がわからなくとも、聞きなれると、語境界におけるピッチのパターンを認識し、語を正確に切り出すことができるようになるはずである。特に中国語話者は、四声のため、ピッチに敏感であるので、慣れると、語境界を比較的容易に認識できるようになり、分節化が可能になると考えられる。

結論を先取りして言うと、このようにイントネーションやポーズなどの音声情報に学生の注意を向けさせ、フレーズごとに理解するように促していくと、聴解能力を向上させることに繋がっていくと思う。

[12] ここで提示した図は、筆者が NHK 動画ニュース『台湾公共の場所での喫煙禁止』 (2009.1.11) から、音声を抽出し、その音声を Praat で作成したものである。ウィンドウの長さは約 6.5 秒

3.3. 聴解における辞書の使用

読解には、辞書を使うことができるが、聴解では、辞書を使えないということが言われているが、単音を正しく、聞き取ることができ、語境界がわかれば、聴解においても、辞書を使って、意味を知ることができる。筆者の英語についての経験であるが、ある程度、英語を聞き慣れた後に、ニュースを見ながら辞書を引いて意味を調べたことが何度もある。また、日本語能力試験１級合格者にニュースを聞きながら、辞書を引いたことがあるかどうかと聞いたところ、あるという答えであった。但し、辞書を引くためには、単音レベルで正確に聞き取れることと語境界がわかることが必要となる。

4. 研究方法

初級から中級レベルの日本語学習者は、スワン彰子 (1989) の報告でもあったように、単音レベルでの間違いが多いことはだれしも予測ができる。さらに、中国語話者の場合、読んでわかる単語が聞いてわからないということも同様であろう。これは、単音レベルで、正確に聞き取ることができないことや語境界がわからないことが原因で生じる問題であることも容易に推察できよう。

そこで、本稿では、音声を聞かせながら、ひらがなによるスクリプトを見せる、つまり、目からのインプットを与えることにより、単音レベルでの聞き取りが、正確にできるようになるのではないかと想定し、実験を試みた。また、ひらがな表示を見ながら、音声を聴くと、第２章１節で述べたような日本語の音韻ルール、例えば、促音の後には、清音がくることが多いなどを認識することができるのではないだろうか。更に、この練習は、ひらがな表示された単音を組み合わせて、一段階上の語レベルの聴解練習、つまり、ボトムアップによる聴解練習としても利用できる。

また、音声におけるフレーズは、文法上の句と合致することが多いので、文の理解を深めさせるために、学生にポーズとイントネーションに注意を払わせようと考えた。そこで、スクリプトのひらがなに番号をつけた上で、フレーズ[13]の終りの番号を書くという方法、つまり分節化を試みさせることにした。これにより、学生は、イントネーションに注意を払うだけではなく、音声をひらがなと対応させることができるようになる。

さらに、ひらがなを漢字仮名交じり文にするようにという指示を与えた。既知の単語を聞き取ることも難しい学習者であっても、ひらがなを手掛かりに知っている単語を聞き取ろうと努力すると考えたからである。また、漢字にするためには、内容に応じて同音異義語の中から、適した漢字を選ぶ必要[14]がある。言い換えれば、内容についての推測なしには、漢字仮名交じり文にすることは、できない。

この学習者に与えるスクリプトの表記の方法については、後ほど第４章２節で詳しく説明する。

---

[13] このフレーズは、ポーズが比較的長く、ピッチリセットの起きるイントネーション句のことである。
[14] 同音異義語の例に「六階」と「六回」がある。例：「ろっかいの屋上で遊んでいて」（『小学生マンションで転落死』　NHK動画ニュース 2009.3.21）

4.1. マテリアル

マテリアルのスピード、ニュースの既知性、ジャンルについて、考慮する。

(1)　まず、スピードについてであるが、視聴覚教室で、行うため、最初、スピードの調整は行わなかった。また、第１学期、及び、第２学期の初めは、学生が途中で止め、繰り返し聞くことを許した。しかし、それでは、聴解能力の向上に結び付かないと思い、第２学期の３週目から、筆者が一方的に流すようにした。同時に、Audacity[15]を用いて、スピードを調整した。調整の理由は聞きながら、目で文字を追うというタスクは、負担が多いと考えたからである。また、同じニュースを 7, 8 回聞かせるが、各回の間に１分の休止時間をおいた。

(2)　次に、既知のニュースと未知のニュースでは、どちらの方が、聴解能力の向上に役に立つかについてであるが、既知のニュースだと、トップダウンによる聴解が利用でき、内容がわかるため、未知語の意味を推測することが可能であると思う。

既知のニュースの例は台湾に関するニュースである。学生は既にニュースの内容を知っているため、台湾に関するニュースだと、現実の世界に対する知識があるのでトップダウンによる聴解を行うことが可能である。

(3)　最後に、ジャンルについてであるが、学生に、見たいジャンルについてアンケートをとったところ、文化ニュース、次に社会ニュースという希望が多かった。筆者は、殺人などの殺伐としたニュースをわざと避けていたが、アンケートに、自分で見た殺人のニュースがおもしろかったと書いた学生がいたので、三面記事的なニュースも入れたほうがよいと考えを変えた。特に、２週続けて、違う殺人事件のニュースを使用すると、最初の週は、知らない単語が多くても、次の週には、わかる可能性が高くなる。さらに、反復練習の効果により、２週連続して同じ単語を違うニュースで聞くことによって、記憶に残る率が高くなることが十分想定される。

ヨミウリニュースポッドキャストには、社説の朗読があって、聴解レベルの高い学生には、参考になると思われる。しかし、以前、ヨミウリニュースポッドキャストの「読売寸評」の朗読を利用したことがあるが、未知語が多くて、難しかったようである。

さらにニュースではないが、アニメの音声のみを使用してもよいと思われる。ただ、アニメの音声は、短い台詞が多く、分節化に役に立つのかどうかには疑問であるが、抑揚が大きく、わかりやすいのではないかと考えられる。また、学生はアニメだと喜んで、熱心に聞くという点を考慮に入れると、プラスになるのは間違いなさそうである。さらに、ポッドキャストには、文学作品も含まれているので、それらを利用しても参考になると思われる。文学作品についても、未知語の割合に気をつける必要があると思う。

利用可能なマテリアルには、インターネット上にある NHK の『ラジオニュース』や『ヨ

[15] Audacity の使い方や動画ニュースから、音声ファイルを抽出する方法については、「日本語ニュース聴解教授法」（白井　2008）に詳細に述べてあるので、参照されたい。

ミウリニュースポッドキャスト』さらには、動画ニュースから抽出した音声などが挙げられる。

このうち、『NHK のラジオニュース』については、スピードが「ふつう」、「ゆっくり」、「はやい」の３種類があり、また、『朝 7 時のニュース』、『正午のニュース』、『夜 7 時 NHK きょうのニュース』、『NHK ジャーナル』と４種類が提供されている。スクリプトがないので、文字化するのに、時間がかかるが、動画ニュースに内容の同じものが含まれていることが多いので、参考にすることはできる。

『ヨミウリニュースポッドキャスト』には、社説やニュース以外の記事などもあり、トピックが豊富である。しかし、やはりスクリプトがないので、文字化する必要がある。

『NHK 動画ニュース』では、内容を短くまとめたものが最初に提示され、その後、詳しい状況などが説明される。『NHK 動画ニュース』は、ほかの動画ニュースに比較して、長く、同じ言葉が繰り返されることも多いので学生の聴解能力の向上に有益であると考えられる。そして、『FNN ニュース』や『ANN ニュース』は、音声とスクリプトがほぼ一致しているので使いやすい。また、『日テレニュース 24』の動画ニュースは利用期間が長いので、学生に予習や復習をするように指示できる。更に、JNN 系列の地方ニュースには、RKB による『お掃除を楽しく学んで』 (2009.3.31) のようなやさしい語を使ったニュースもある。

動画ニュースには、目撃者などの話に間投詞が多いというような問題点もあるが、筆者は、目撃者の話を削除することによって解決している。

4.2. マテリアルの提示方法

マテリアルの提示についてであるが、表 1のように、ひらがな表示し、その下に番号をつける。そして、助詞「は」、「を」、「へ」などは、発音どおり、「わ」、「お」、「え」と表示し、さらに外来語もカタカナではなく、ひらがなで表示する。しかし、「経営者」などを「けーえーしゃ」と発音していても、意味の推測及び漢字の読み方に慣れさせるために、「けいえいしゃ」と表示する。

わ	た	し	わ	か	な	だ	の	だ	い	が	く	え	い	き	た	い	そ	れ
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19

表 1　マテリアルの提示方法[16]

表 1において、4 の「わ」、13 の「え」は、助詞「は」と「へ」であるが、このように発音通り、「わ」と「え」と表示する。また、5、6、7 の「かなだ」は、外来語の「カナダ」であるが、ひらがな表示する。

表 1を見ても、どこが語境界、句境界であるかは、直ぐにわからないであろう。しかし、聞きながら、目で字を追うと、語境界、句境界がわかる。更に、天気予報にあった例で

[16] この文は筆者が作成したため、音声はない。

あるが、「ですねこの」という音の連なりがあった。これは２個のフレーズから構成されているが、境界が「す」の後か、「ね」の後かは、音声を聞かないとわからないであろう。この例では、図 2に示したように、「ね」の後にポーズがある。

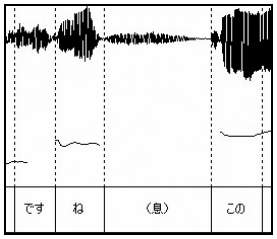


図 2　聞かないとわからない例　ウィンドウの長さ：1 秒強　『夜 7 時 NHK ラジオニュース』(2008. 1. 10)より

4. 3.　　指示

学生に対する指示であるが、表 1の例を用いて説明する。まず、フレーズの終りを見つけるように指示する。1 から 4 の「わたしわ」が、名詞句であり、5 から 13 の「かなだのだいがくへ」も、名詞句である。次の 14 から 17 の「いきたい」が動詞句であるので、フレーズの終りは、4、13、17 となる。

次に、助詞と思われるひらがなの訂正を行うように指示する。4 の「わ」を「は」に、13 の「え」を「へ」に直させる。次に、外来語をカタカナに　(例：かなだ　→カナダ)、また、漢字に直すように（例：だいがく→大学）指示する。

これは、聞いた言葉から、意味を推測させるのが目的であるので、間違えても減点はしないで、正しく推測した場合に、点を与えている。さらに、最初のうちは、推測を奨励するために、単語の一部を正しく、推測したら、点数を与えるようにしていた。

ひらがなで書かれた文をカタカナや漢字に直すことが内容の推測とはならないという意見もあり得る。確かに、日本語と中国語の意味は必ずしも、同様ではない。しかし、前述のように、読んでわかる文も聞くとわからないという学生が多いので、漢字で書くようにと指示することは、内容についても十分推測させることになる。そして、前述のように、既知語を聞き取ることができない学習者が、文字を目で追いながら、漢字に直すというタスクを通して、既知語の音韻と意味をリンクさせることができるようになると思う。

この学習方法では、学習者が、ひらがなを見ながら、聞くことが大事である。そのため、学習者に、聞かないでフレーズの終りの番号を書くと減点するとあらかじめ言っておくとよい。学習者が聞かなかったと思われるときには、波形図やピッチ図を見せ、減点を納得させる。

4. 4.　　期待される効果

この方法によって、次のような効果があると期待される。

(1) 単音レベルで正確に聞き取れるようになる。

(2) 既知語の音韻と意味をリンクできるようになる。

(3) イントネーションに注意を払うようになり、その結果、フレーズごとに理解するようになる。
(4) 未知語の意味を推測しようと努力するようになる。
(5) 単音レベルで正確に聞き取れ、分節化ができるようになった後に、未知語の意味を辞書で調べることができるようになる。

4.5.　授業の流れ

この実験は、「新聞日語聴解」、つまり、ニュースの日本語という授業[17]の一部として行っている。授業の流れは、まず、小テストを行う。

小テストには、実験に使っているマテリアル以外に、教科書の単語、ならびに日本語能力試験の模擬テストの問題を加えている。教科書の単語については、ニュースを聞かせながら、日本語とその中国語訳を書かせる。模擬テストは、第 1 学期に 2 級を用い、第 2 学期には 1 級の問題を用いている。実験に使ったニュースは、1 分前後、字数にして 500 字未満である。小テストの前に、ニュースのひらがなスクリプトを、各学生に 2 枚ずつ与える。そのうち、1 枚をテストの回答として、回収する。

その後、筆者は、黒板に単語の始まる数字、例えば、表２の「カナダ」なら、“5”を書き、学生たちに、漢字やカタカナで板書するように指示する。板書した学生には、点数を加算するので、学生たちは、喜んで答える。

わからなかった単語は、教師である筆者が板書し、簡単な説明をする。その後、教科書に沿った授業を行うが、学生は、すすんで答えるために、授業ははかどる。

5.　結果

このような聴解練習をほぼ一年間続けた結果について報告する。

5.1. 日本語能力試験練習問題の結果

この研究に参加している学生たちの聴解能力の向上を測るためにテスト[18]を行った。テストは、9 月 11 日と 6 月 11 日に実施した。テストの問題は市販のもので、同じもの[19]を使用した。テストの内容を、表 2に示す。

---

[17]日本語学習歴 3 年程度の学生が対象である。台湾では、9 月から、翌年 1 月までが、第 1 学期、2 月末から、7 月初めまでが第 2 学期である。
[18] このテストでは、スピード調節は行わなかった。しかし、学生は、自分で、遅くしたり、途中で止めたりすることが出来る。
[19]同じ問題であるが、最初のテストの後に、解答を教えなかった。更に、約 8 ヶ月の間が空いており、前のテストについて覚えていなかったであろう。

答	図	図	図	図	図	音声	音声	音声
3 級	時計	地震後の部屋	楽器吹く	展覧会日付	持って行く物	兄 : やさしい	家 : 川の近く	
2 級	顔 : 額が広い	ベンチの位置	バスの時刻	講義時期レベル	車ナンバープレート	映画の選択	人気のある電話	
1 級	指輪薬指	台風の位置	桃 : 円グラフ	印刷の順番	日付	喫煙場所	日付と時間	航空便箱の数

表 2　試験問題の内容

テスト問題の 3 級[20]の例（回答欄：時計の絵、7:10, 7:30, 7:40, 7:50）
問：男の人と女の人が話しています。映画は何時から始まりますか。
女：まだ、出かけなくていいの？男：え、今何時？女：7 時 10 分前よ。男：あ、大変だ。あと、40 分で映画が始まっちゃうよ。行ってきます。
この質問の正解者は最初のテストでは 2 人であったが、2 回目では、6 人であった。

参加者 15 人[21]の成績は表 3のようである。13 人の成績が良くなった。中でも学生 5 の向上は著しい。だが、学生 14 は、成績が悪くなり、学生 2 は変化がない。

	学生 1	学生 2	学生 3	学生 4	学生 5	学生 6	学生 7	学生 8
前	8	10	7	12	3	7	10	10
後	12	10	9	15	15	10	12	17
	学生 9	学生 10	学生 11	学生 12	学生 13	学生 14	学生 15	合計
前	4	7	6	11	6	12	15	128
後	6	14	9	16	7	9	18	179

表 3　成績の変化　22 題中の正解数

また、全体の成績をボックスプロットにすると、図 3のように、違いが明らかである。

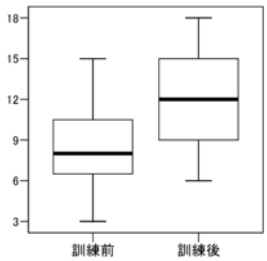


図 3　訓練前と訓練後の成績の変化

[20] 『あなたの弱点がわかる！日本語能力試験　3 級模試 x 2』(日本語テスト協会 2005)より。他に『実力アップ！日本語能力試験 1 級聴解問題』のシリーズからの問題を多く採用した。
[21] この研究に参加した学生は、30 人弱である。しかし、前期と後期で履修者が少し違った。また、最初のテストを、学期の最初の授業の日に行ったところ、休んだ学生が多かった。ここでは、両方のテストに参加した 15 人のみについて、報告する。

更に、対応のあるサンプル t 検定を行ったところ有意差が見られた（t= 3.806, df=14, p=0.02）。このようにこの訓練を行った結果、学生の聴解能力は向上した。

レベル別に変化を見てみると、3 級レベルの平均正解率が 30%から 52%、2 級レベルが 45%から 63%、1 級レベルが 41%から 48%とそれぞれ、伸びている。伸び率は、3 級が 72%、2 級が 40%、1 級が 18%であった。3 級の伸びが著しいことから、やさしい問題に確実に答えられる学生が増えたことを示している。

5.2. 分節化

分節化についてであるが、学生は、以前よりも、正確に単語の切り出しができるようになった。第 3 章 2 節で述べたように、修飾語と被修飾語の間には、ポーズやピッチリセットがない方が多いが、聴解練習を始めた当初、学生達は音声を聞くことなしに、動詞末尾の「た」や「る」をフレーズの終りと、答える学生が多かった。ところが、第 2 学期目では、境界を正確に答える学生が増えた。附録 1 に学生の回答例を示したので、参照していただきたい。

5.3. 助詞について

練習初期には、スクリプトで、「わ」や「お」や「え」を探し、それを「は」、「を」、「へ」とする学生がいた。しかし、第 2 学期目の終りの頃には、ほぼ正確に助詞のみを訂正する学生が増えた。助詞は、アクセント句の終りにあるので、このことは、アクセント句の境界を認識できることを意味する。

5.4. 漢字

次に、聞き取れるようになった漢字について報告する。

(1) 約 1 カ月後（10 月 16 日）『ヨミウリニュースポッドキャスト』(2008.3.12)

このような聴解練習を始めてから約 1 ヶ月後の 10 月 16 日のテストで、聞き取れた単語は、ひらがな記述があっても、多くはなかった。この日、使用したのは、映画「サウンド　オブ　ミュージック」で有名なエーデルワイスのハウス栽培が可能になったというニュースであった。このニュースに出てくる「映画」は、1 年生で習う単語であるが、23 人中、7 人、全体の約三分の一のみが、回答した。また、「いちがつ」を「1 月」と記入した学生は、23 人中 4 人とかなり少ない。

(2) 約 2 カ月後（11 月 13 日）『NHK ラジオジャーナル』(2008.7.7)

約 2 ヶ月が経過し、この聴解練習に学生が慣れてきたのか、書ける漢字が増加している。この日、使用したのはサミットが開かれる国際メディアについてのニュースであった。24 人中 13 人が「大きな」を、10 人が「大変」を、8 人が「10 分」を漢字で記入した。また、「北海道」は交換留学する大学が北海道にあるためか、8 人が記入した。しかし、同根語であっても、4 級の「外国」は、1 人、3 級の「世界」は、3 人だけが漢字で記入した。

(3) 約 3 カ月後（12 月 18 日）『ヨミウリニュースポッドキャスト』(2008.1.31)

この日、使用したのは、東京と大阪で禁煙に対する考え方が違うというニュースであった。ニュースの読み上げ方が、話しかけるような調子であったためか、わかりやすかっ

たようである。22 人中 17 人が、「東京」や「大阪」を、15 人が「全面」を、10 人が「多く」と「場合」を漢字で記入した。その一方で、「多く」を「大く」と書いた学生も 2、3 人いた。

(4) 約 7 カ月後（4 月 30 日）『ギョーザ手作りする家庭増加: NHK ニュース』(2009.1.30)

使用したのは、毒入り餃子事件後、手作り餃子を作る人が増えたというニュースであった。23 人中 16 人が、「事件」を、15 人が「民間」を、14 人が「調査」を漢字で記入した。これらの単語は、日本語能力試験の 2 級レベルの単語である。また、3 級レベルではあるが、和語である「比べて」を 14 人、「行った」を 13 人が漢字で記入した。このことから、学生の聴解能力が向上していると思う。

5.5. 中国語の使用

日本語の漢字ではなく、中国語を書いていることも少なくなかった。例えば、「三日間」を「三天」、「1 メートル」を「1 公尺」、「金を出せ」の「金」を「銭」と回答した。また、「送迎」は、中国語で、「接送」であるが、日本語と中国語では、漢字の順序が反対となる語も多いため、「送接」と書いた学生が 3 人いた。これは、未知語の推測をしていることを示している。更に、「マンション」と「公寓」、「転落」と「跌落」というように日本語と中国語を書いた学生もいる。これは、ニュースの内容を理解していることを示している。

5.6. 外来語

外来語は、和語や漢語と違う特徴がある。例えば、長音記号が使われるのは、外来語だけであり、促音の後に有声音が来るのも、外来語だけである。そのため、日本人はひらがな表示でも、外来語だと認識できるし、聴いても外来語と認識できるであろう。しかし、学生には、最初、むずかしいようであった。特に中国語話者は、外来語がすきではない。また、カタカナを覚えていない学生もいた。しかし、使用していた教科書、『ニュースからおぼえるカタカナ語 350』(1999) が、外来語を紹介していたこともあり、以前よりは、外来語をカタカナで書くようになってきた。

5.7. 聞く回数

外国語の聴解において、最初あやふやだったことが、二度目にはっきりしたり、また、最初聞き落したことを二度目に聞き取ったりというようなことがあり、何度も聞くことは、聴解能力の向上に役立つ。それにも関らず、以前、違う学生で同じレベルの聴解のクラスを教えた時に、学生は、一度聞いたら、それ以上聞きたいとは、言わなかった。それどころか、聴解の授業だというのに、注意をしないとヘッドホーンを外していた学生もいた。しかし、この聴解練習では、フレーズの終りを聞き取るというタスクが簡単なためか、7 回も 8 回も聞きたがった。その結果、日本語のイントネーションもよく分かったようで、テスト後に見せたニュースのイントネーションを真似して、繰り返す学生もいた。

6. まとめ

結果が示すように、この方法により、学生の聴解能力は、向上した。1年間勉強すれば、学生の聴解能力が向上するのは当然だという意見もあると思う。しかし、この聴解練習を始める一年前に同じレベルの学生を教えた時に、教科書に沿って、単語の導入、文法などを教えてから、学生に聞かせたのだが、スクリプトを見て答える学生が多かった。つまり、聴いていない学生が多かった。その学生たちに、アンケートを取ったところ、ニュースは、見ても聴いてもわからないから、見たり聞いたりしないと答える学生が多かった。しかし、この聴解練習では、ひらがなによるスクリプトがあり、学生がフレーズの終わりの数字を答えるというように、タスク自体は、簡単である。

また、中国語話者は、日本語の漢字を、中国語の発音で黙読している可能性があり、音韻からの語認知に問題があるが、この聴解練習は、語認知を早くする効果があるのではないかと思う。更に、中国語と日本語の漢字の読みには、音韻ルール[22]が適用できる場合もあり、慣れると日本語を聞いた時に、漢字が思い浮かぶこともあると思う。

このクラスに対する学生の評価は、意外なことに、好意的であった。明道大学では、毎学期、学生にインターネット上で各教師の評価をさせている。各質問に対し、「かなり同意する」、「やや同意する」、「どちらかと言えば同意する」、「どちらかと言えば同意しない」、「あまり同意しない」、「ほとんど同意しない」の選択肢の中から選ぶ。このクラスでは、毎週小テストを行っていたので、学生からの評価が低くなるだろうと筆者は、考えていた。ところが、附録2の第1学期のアンケートの結果が示すように、6点満点で、平均5とあまり悪くなかった。

また、「この教え方が好きだ」という意見に同意するかどうかという質問に、第1学期では、「かなり同意する」という学生が、24人中12人、「やや同意する」と言う学生が6人、「どちらかと言えば同意する」という学生が2人であり、否定的な選択肢を選んだ学生は、4人だけであった。第2学期においても、ほぼ同様で、23人中13人が「かなり同意する」を選択し、「どちらかと言えば同意しない」を選択した学生は4人だけであった。学生が聴解能力の向上を自覚したのかもしれない。

ロジェ・カイヨワ (1990) によると遊びの要素に「競争」があるという。筆者は、成績のいい学生は、成績と名前を発表し、ほかの学生については、クラス内の自分の順位を知ることができるように点数だけを発表した。そこで、学生たちは、いい成績をとろうと競争するのが楽しかった可能性もある。また、テストの後、漢字などを競争するようにホワイトボードに書いていく様子を見ていると、楽しそうであった。

ひらがな表示のスクリプトを聴解練習に用いることに関しては、筆者自身、これで聴解の練習と言えるのだろうかという一抹の疑念があったが、学生の聴解能力の向上が見られたこと、また、この聴解法を好きだという学生が多かったことから、有益な聴解練習だと思われるので、新しい聴解練習として使用されることを願っている。

---

[22] 音韻ルールの例：ピンインの“h”が日本語の「カ行音」となることが多い。（会 hui→kai）

この聴解練習について、台湾の学会で発表した (白井 2009) ところ、自分もこのような方法で勉強したかったという意見があった。一方、既知語は聞き取れるが、未知語は聞き取れないと、音声を聞きながらの辞書の使用を疑問視する声もあった。

今後の研究として、違う言語で、分節化について調査してみたい。日本人中国語学習者が、ローマ字のようなピンインスクリプトを見ながら、分節化の練習について調査してはどうだろうか。

また、話し方によって、分節化を行う際の難易度が変わるのではないかと思っている。抑揚の大きい話し方の方が小さい話し方より分節化を行いやすいのではないだろうか。この点についても調査してみたいと思っている。

更に、アクセントのタイプによって、分節化を行う際の難易度が違うかどうかについても、調べてみたいと思っている。

謝辞

* 査読者の方たちからの貴重なご指摘に深謝申し上げる。特にひらがなスクリプトを使用する重要性について指摘を受けたことに感謝する。

参考文献

Beckman, M. E. and J.B. Pierrehumbert 1986 “Intonational structure in English and Japanese” *Phonology Yearbook 3*

Cutler, A and D. Norris 1988 “The role of strong syllables in segmentation for lexical access” *Journal of Experimental Psychology: Human Perception Performance 14*. 113-121.

Driscoll, P., 1999 *The teaching of modern foreign languages in the primary school*

Ross, S 1997 “An introspective analysis of listening inferencing on a second language listening test.” ,*In G.Lasper & E.Kellerman(Eds.)Communication strategies: Psycholinguistic and sociolinguistic perspectives,* NY:Longman,216-237

Venditti 1995 *Japanese ToBI Labeling Guidelines, Manuscript*

0’Malley, M. L. , Chamot, A. U. , & Kupper, L. 1989 “Listening comprehension strategies in Second Language Acquisition”. *Applied Linguistics*, *10*, 418－437

天野成昭ほか　1999　『NTTデーターベースシリーズ　日本語の語彙特性　頻度』三省堂

浅田和泉　2002　「漢字圏学習者への『平仮名』指導―導入方法の現状と指導に対する問題点―」『佐賀大学留学生センター紀要』2: 31-46

五十嵐陽介,菊池英明,前川喜久雄　2006「第7章　韻律情報」『日本語話し言葉コーパスの構築法』347-451

尹松　2002　「第二言語・外国語教育における聴解指導法研究の動向」　『言語文化と日本語教育』 5: 279-288

岡ノ谷一夫　2003　『小鳥の歌からヒトの言葉へ』　東京：岩波書店

梶川祥世　2007　「乳幼児における韻律の知覚と産出の発達」　『音声研究』11(3)

金田一春彦（監修）1958　『明解日本語アクセント辞典』　（第二版）三省堂

邱學墹　2002　「台湾人日本語学習者における日本語漢字熟語の処理過程―日・中２言語間の同根語と非

同根語の比較―」　『広島大学大学院教育研究科紀要』第二部　51: 357-365
邱兪琬　2007　「台湾人日本語学習者における日本語単語の聴覚的認知―同根語・非同根語・ひらがな単語・かたかな単語の比較―」　『日本語教育』　132: 108-117
小林典子ほか　1995　『耳で学ぶ日本語　わくわく文法リスニング 99』　凡人社
小森和子　2006　「第二言語としての日本語の文章理解における第一言語の単語認知処理方略の転移-□能力と聴覚入力の相違を中心に」　横浜国立大学留学生センター紀要　12: 17-39
堺典子、西平薫　1999　『ニュースからおぼえるカタカナ語 350』　アルク
白井勢津子　2008　「日本語ニュース聴解教授法」　『明道日本語教育』　2: 113-144
白井勢津子　2009　「分節化を利用した聴解」　『語言文学課程與教学学術検討会論文集』273-292
スリーエーネットワーク 1998『みんなの日本語初級Ｉ』
スワン彰子　1989　「聴解力について」　『講座日本語教育』　24; 16-129　早稲田大学日本語研究教育センター
中村飛鳥　2003　「英語の聴解に及ぼすスピード、ポーズ挿入および個人差要因の影響」『京都大学大学院教育学研究科紀要』　49: 270-279
日英言語文化研究会　2008『日英の言語・文化・教育―多様な視座を求めて』三修社
日本語テスト研究会　2005　『あなたの弱点がわかる！日本語能力試験３級模試ｘ２』　ユニコム
認知心理学キーワード　http://ameblo.jp/hkaiho/entry-10010029112.html
林安紀子　2003　「乳児における言語のリズム構造の知覚と獲得」　『音声研究』7(2): 29-34
前川喜久雄ほか　2004　日本語話し言葉コーパスのイントネーションラベリング　http://web.mac.com/jen.venditti/iWeb/Site/Japanese%20ToBI_files/XJToBI2004.pdf
松本節子ほか　2007　『実力アップ！日本語能力試験　１級　聴解問題』第３刷　ユニコム
松本節子ほか　2008　『実力アップ！日本語能力試験　２級　聴解問題』第３刷　ユニコム
松本節子ほか　2008　『これで大丈夫！ ３級　聴解問題』第２刷　ユニコム
水谷澄子　1996　「独話聞き取りにみられる問題処理のストラテジー」　『世界の日本語教育』6: 49-64
宮城幸枝　1999　『毎日の聞きとり 50 日―初級日本語聴解練習（上)』
山口仲美　2006　『日本語の歴史』　岩波書店
横山紀子　1999　「インプットの効果を高める教室活動：日本語教育における実践」　『日本語国際センター紀要』9: 37-54
吉岡英幸　2008「聴解」授業の到達目標について　http://www.koryu.or.jp/nihongo/ez3_graphics.nsf/0/54fd438c0601d686492574f800291c3e/$FILE/toutatumokuhyo.pdf
吉岡英幸　2008　中・上級レベルの「聴解」授業計画案　http://www.koryu.or.jp/nihongo/ez3_graphics.nsf/0/286bd762174098cd492574f800290d8b/$FILE/jyugyokeikaku.pdf
矢頭隆、小松英二　1999　「テキスト音声変換技術と応用」　『沖電気研究開発』　Vol66.　No.2 pp59－62
林徳勝ほか　2004　『３隻耳學新聞日語』　三思堂

ロジェ・カイヨワ　1990　『遊びと人間』　講談社学術文庫

聴解練習に用いたニュース（一部）

NHK 動画ニュース　2009.1.11 『台湾　公共の場所での喫煙禁止』

NHK 動画ニュース　2009.3.21 『小学生　マンションで転落死』

NHK 動画ニュース　2009.4.2 『住宅が全焼　子ども 2 人死亡』

NHK ラジオニュース　2008.1.10 『夜 7 時 NHK きょうのニュース』

NHK ラジオニュース　2008.7.7 『NHK ラジオジャーナル』

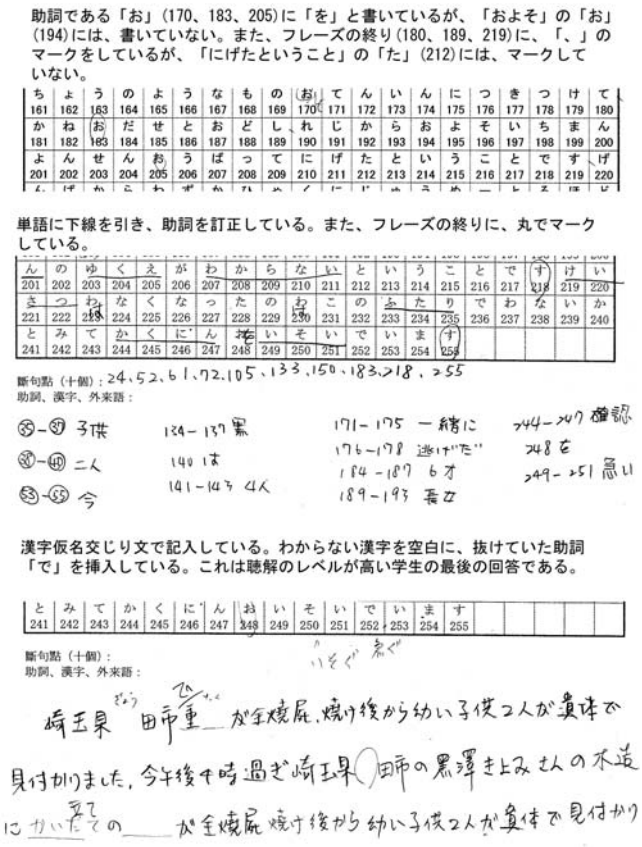
MBS 動画ニュース　2009.4.1 『コンビニ強盗』

RKB 動画ニュース　2009.3.31 『お掃除を楽しく学んで』

ヨミウリニュースポッドキャスト　2008.1.31

ヨミウリニュースポッドキャスト　2008.3.12

附録 1　学生解答例



附録２　学生からの評価

明道大學097學年度第1學期學生評量教師教學滿意度調查統計表

系所名稱：應用日語學系
班級：3　D　　選課人數：28
科目：新聞日語聽解(一)
教師：白井勢津子　　老師
問卷人數：28
無效問卷：4　　份
有效問卷率：　85.71　%

	滿意度人次								
	非常同意					非常不同意	この欄は、加重平均の計算のために使用されていた。代わりに、筆者による抄訳を示す。	平均	標準差
	6	5	4	3	2	1			
01 教師選用的教材難易適中	12	6	1	4	1	0	教材の難易度が適している。	5.00	1.26
02 老師所選用（或建議購買）的教材在教學或研究時，有符合所需	12	6	2	3	1	0	教材が授業で必要としている内容に合っている。	5.04	1.21
03 教師能清楚表達授課內容	11	6	2	4	1	0	教師は、授業の内容をはっきりと教えられる。	4.92	1.26
04 我喜歡教師的教學方法	12	6	2	3	1	0	私は、教師の教え方が好きである。	5.04	1.21
05 教師的講解勝過自修	11	6	2	4	1	0	教師による講義は、自習するのに勝る。	4.92	1.26
06 教師對這門課的內容準備很豐富	11	7	2	3	1	0	教師は、このクラスのためによく準備している。	5.00	1.19
07 教師關心我們在這門課的學習情況	12	5	2	4	1	0	教師は、クラスの学習状況を気にかけている。	4.96	1.27
08 教師會依課綱進度適時調整上課內容	12	6	2	3	1	0	進度に応じて、授業の内容を調整している。	5.04	1.21
09 需要時，教師很樂意與我們討論課業	13	5	1	4	1	0	必要な時に、教師は喜んで学業について話しあう。	5.04	1.27
11 提問時，教師能清楚回答學生問題	11	7	1	4	1	0	学生の質問にはっきりと答えることができる。	4.96	1.24
12 這門課激發我想知道更多相關資訊的興趣	11	7	3	2	1	0	関連する事柄についての興味を更に掻き立てる。	5.04	1.14
13 就教師整體教學品質而言，若有機會，還希望修他的課	12	6	2	3	1	0	機会があれば、この教師の他のクラスも取りたい。	5.04	1.21
14 本科目的教學目標、進度、方法及成績考評清楚	12	6	3	2	1	0	科の目標, 進度, 方法, 成績評価がはっきりしている。	5.08	1.15
15 教師不會無故遲到、早退或缺課、調課，請假時有適當安排。	13	5	1	4	1	0	理由のない遅刻等がない。補講などが適切である。	5.04	1.27
16 教師規定的作業或考試，反映了上課的內容	13	5	2	2	2	0	宿題や試験が授業の内容を反映している。	5.04	1.31
17 本科目的考評方式與配分比例客觀公正	13	5	3	2	1	0	この科における成績評価・配点が客観的で公正だ。	5.13	1.17
18 整體而言，對這門課感到滿意	14	4	2	3	1	0	全体的にこのクラスに満足している。	5.13	1.24
	205	98	33	54	18	0		5.02	1.23

列印時間：　2009/8/4　上午10:18:37

執筆者紹介
氏名：白井勢津子
Email：setsuko.shirai@gmail.com
専門：音声学、社会言語学